

# インドのマランジカンド鉱床

<石原 舜三>



1. インド, マランジカンド鉱山の採鉱ピット. 南方を見る. ベンチ間隔(高さ)は基本的には15m.



2. 黄銅鉱, 赤鉄鉱(+磁鉄鉱)からなる銅鉱石. コインは直径15mm.



3. 脈石英に富む銅鉱石.



4. 採鉱ピットの北端部. ピットは南北方向, ゆるく東に張り出す弧状.



5. 上: 赤鉄鉱化・珪化を受ける変質母岩.

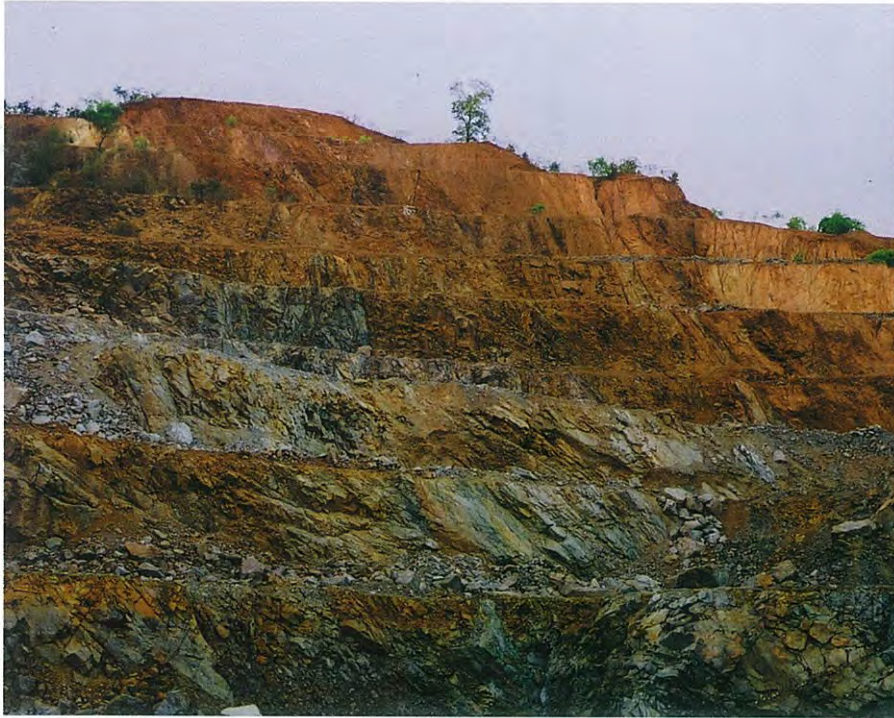


6. 左: 変質母岩(下部)とカリ長石のみからなる脈際変質帯(上部).



7. 上：網状石英脈部, 8. 左：母岩の分化相, 9. 下：ピット底の採掘風景.





10. 鉱体最上部の溶脱帯(地表直下の褐色部). 鉱物は主に針鉄鉱.



11. 桃色花崗岩中のマイクロクリン(＋磁鉄鉱)化と下降地表水によるグリーンカッパーの生成.



12. 溶脱帯下位の酸化銅鉱体. 銅二次鉱物は孔雀石と少量の藍銅鉱・珪孔雀石.